

2-1 看護倫理を受講する看護学生の倫理に関するイメージ

○ 佐々木 新介、堀 理江、藤野 文代（関西福祉大学）

I. はじめに

多様な価値観が混在する医療現場において、看護職を目指す看護学生は、早期から高い倫理観を形成することが重要であると考えられる。本学においても、様々な倫理的問題について多様な視点から教授している。しかし、看護学生の抱いている倫理に対するイメージは、学習効果にも影響するのではないかと考えられる。本研究では、看護倫理を学ぶ看護学生に質問紙調査を実施し、自由記述の内容から看護学生の倫理に関するイメージについて考察してみた。

II. 研究方法

対象は、A大学看護学部で看護倫理を履修する看護学生（2年生 92名、3年生 86名）178名である。受講前に『看護学生としてなぜ倫理を学ばないとならないと思いますか』の問いに対する自由記述の内容を分析した。自由記述の内容から「倫理に関するイメージ」を取りだしコード化した。さらに、類似したコードを分類しサブカテゴリーとし、内容が類似したものをカテゴリーとした。

倫理的配慮：質問紙への回答は、無記名、自由意思であること。成績等には関係しない旨を丁寧に説明し回収箱を設けた。関西福祉大学看護学部倫理審査委員会の承認を得た。

III. 結果

1) 対象者の属性

本年度、看護倫理を履修登録し受講した学生は178名であった。履修学生に質問紙を配布した結果、170名から回収（回収率：95.5%）が得られ、内訳は2年生 85名、3年生 85名であった。

2) 抽出したカテゴリー内容

自由記述の内容から、抽出されたカテゴリーは、【看護を提供する上での基盤】【権利の擁護と適切なケアの提供】【倫理的問題に直面した時の備え】【生命に関する職業という認識】【相互作用プロセスの基盤】の5つであった。

3) 2年生の自由記述の内容

看護倫理を学ぶ理由として、2年生では「よい看護」「適切な看護」という、抽象的な表現が多く認められた。また、「患者とコミュニケーションをとるため」のように患者との関係性を構築する手段として倫理が必要であると考えている内容も認められた。

4) 3年生の自由記述の内容

3年生では「患者の尊厳を守る」「相手の思いを尊重する」といった、より具体的な表現も多く認められた。また「チームワーク」「多職種との連携」といった、チーム医療に関連するような内容も認められた。

IV. 考察・結論

看護学生は看護倫理に対して「看護師として必要」や「患者と関わるために必要」「適切な判断や行動をとるために必要」といったイメージを持っており、倫理意識が芽生え始めていると考えられた。また、学年が上がるほど記述内容にも具体性が増し、倫理に関するイメージも明確であった。これらの要因としては、臨地での実習体験や専門科目に対する理解の深まりも考えられるが、本研究結果ではこれらの要因を明かにすることが困難であり、この点に関しては今後の課題であると考えられた。